

蒲江の砂浜と 海岸崖地の植物群落

蒲江付近の地形はリアス式海岸で、岬や入り江が入り組んでいて、沖には、屋形島や深島が浮かんでいます。岬や島などの海岸は、断崖絶壁となっていて岩肌が露出している所が多く、強い海風や波の飛沫に耐えてきた植物群落がみられます。また、入り江には、港や集落がありますが、葛原浦や波当津浦、池の浦などには砂浜や礫浜があって、そこには、特有の海岸植物群落が発達しています。

● 葛原浦の砂浜植物群落

この浜には、ハイキビ群落とハマゴウ群落が発達しています。

ハイキビは暖地性のイネ科の植物で、大分県では、豊後水道域に極く稀に群生地がみられます。ハマゴウは低木で、よく礫浜（小石の多い海岸）に群落をつくります。この浜には、植えられたハマオモトも群生しています。



ハイキビ群落（葛原浦）



ハマゴウ群落（波当津浦）

● 波当津浦の砂浜植物群落

長い砂浜の奥は柵で仕切られ、クロマツが植えられて風を防ぐ保安林がつけられています。以前は、ここにハマゴウ群落が広がっていました。今では、クロマツと一緒に群生していて、柵からはみ出して砂浜にも群落をつくっています。砂浜の北側の砂丘上にはケカモノハシを伴うコウボウムギ群落がみられます。

● 池の浦の砂浜植物群落

海岸砂浜とは一段高くなっている砂丘に、ハマオモトやツメレンゲが生えているヒメヤブラン群落、それにハマゴウ群落がみられます。ハマゴウ群落には暖地性のハマナツメが生育しています。



ヒメヤブラン群落（池の浦）



● 洲の鼻の礫浜植物群落

屋形島の洲の浜には、大小の礫が堆積した三角形の洲がつくられ、それにハマグルマやハマオモトを伴うハマゴウ群落が見られます。この屋形島では、しばしば亜熱帯の海岸に生育するゲンバイヒルガオもみられます。

● 沖の島の砂浜植物群落

屋形島の東側にある沖の島の砂浜や礫浜には、ハマグルマと結びつくハマゴウ群落が発達しています。その背後地には丈の高いダンチク群落が見られます。

ハマオモトが生えるハマゴウ群落（洲の鼻）



ハマグルマ群落（沖の島）



アシズリノジギク群落（名護屋崎）

● 名護屋崎の岩場の植物群落

蒲江の岬や島々の断崖絶壁では、シャリンバイやマサキ、トベラなどが海岸低木林をつくり、その林縁の岩場に、潮風と波の飛沫があたる厳しい環境に耐えてアゼトウナと結びつくアシズリノジギク群落が発達しています。

● 深島東海岸の岩場の植物群落

東海岸の岩場には、洞穴状になった岩場にハマホラシノブ群落、丘陵状の岩場にハチジョウススキを伴ってナガミノオニシハ群落やコウラボシ群落が見られ、潮だまり（タイドプール）では割れ目に沿ってイソヤマテンツキ群落が発達しています。



イソヤマテンツキ群落（深島）

